



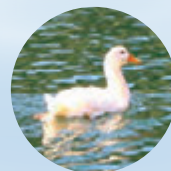
大川村役場前付近を航行する遊覧船

「四国の水がめ」と称され、四国四県の水源となつている高知県の早明浦ダム。令和6年7月6日、そのダム湖で「大川村さめうら遊覧船」の運航がスタートしました。高知県土佐郡の大川村役場付近を発着所に、約45分かけて7kmを周遊します。第三セクター「大川村ふるさとむら公社」が運営を行い、NPO法人新町川を守る会の中村英雄会長（86歳）が毎週大川村に向いてボートを運航しています。

大川村は高知県北部、四国のほぼ中央に位置する山間の村です。かつては白滝鉱山や林業で栄えましたが、早明浦ダムの完成で旧役場など村の中心部がダムの底に沈み、鉱山閉鎖もあつて



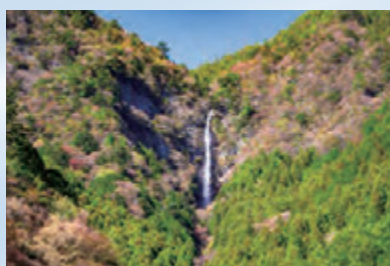
水上から早明浦ダムの景観や歴史を楽しむ 大川村さめうら遊覧船が2024年7月運航開始！ 吉野川下流と上流が協力して地域を盛り上げます



人口が激減。現在は人口約350人と、離島を除いて日本で2番目に人口の少ない市町村となっています。

新町川を守る会は約30年前から大川村で植樹活動を行い、水源の村の森林保全に取り組んできました。「ダムの恩恵を受けてきた私達下流の人間が、恩返しをしなければいけない」と口ぐせのように言っていた中村さんが、旧知の仲だった和田知士村長に遊覧船運航を提案しました。

10月13日、徳島市から車を走らせること約2時間30分。吉野川沿いの山道をぐんぐん上って大川村役場に辿り着きました。役場下の棧橋でボートに乗り込んで、大川村ふるさとむら公社の代表理事・明坂健喜さんのガイドでいざ出発！ 悠々と水をたたえたダム湖、両岸に切り立つ山々を眺め、橋をくぐりながらボートは進みます。遊覧船のアイドル・名無しのアヒルちゃんに



落差106mの小金滝。水量が多い時は、水飛沫が光を受けて小金色に輝くとか



気根を伸ばした樹木。ダム湖ならではの植生



レーダーに映った水底の旧役場

手をふり、ブラックバス釣りや水上スポーツを楽しむ人と挨拶しているうちに、小金滝が見えるビュースポットに到着。大川村には大小多くの滝がありますが、小金滝は落差106mと四国最大級。一番の見どころです。

もちろん早明浦ダムと、それに係る村の歴史もしつかりガイドしてくれます。「このあたりに旧役場が沈んでいます」—— 現在は、湧水でダム湖が干上がった時しか見られない旧役場ですが、ボートのレーダーでその姿を観測することができます。

早明浦ダムの歴史や大川村の美しい自然にふれられる遊覧船。県外からの



有言実行の中村英雄さん。毎週大川村に通ってボートを運航しています

大川村ふるさとむら公社の明坂健喜さん。ダム湖と村の魅力を楽しくガイドします



前日までに
予約が必要！

IMFORMATION 大川村さめうら遊覧船

運航日：4～11月の土曜・日曜・祝日 ※天候、貯水状況で運休
1日4回（11時発、13時発、14時発、15時発）出航
航路：乗船（大川村役場前）～小金滝付近～下船（大川村役場前）
料金：大人1,000円／中学生未満500円 ※定員12名
問合せ：大川村ふるさとむら公社 ☎0887-84-2201



上流ならではのダイナミックな景観を湖上から堪能できます